

MDJ プレスリリース

MEDICA/COMPAMED 2010

ファイナルレポート



ビジネスに力強い追い風



今回の MEDICA と COMPAMED を最も短くまとめてみると、「経済危機を耐え抜いた医療器材のメーカーは、ビジネスに力強い追い風を受け、会場では成長の牽引役としての存在感を十分に発揮していた。」とすることができる。11月17日に会場を視察したメルケル首相とロessler連邦健康相は医療技術産業の持つ優秀さを再確認したようである。「MEDICA は健康産業を反映する印象深い

ショーウィンドーだと言える。」と会場での演説で述べていた。今回の来場者数は、前回とほぼ同じ程度の 137200 人で、その 72%が新規の機材購入に決定権を持ち、10%が購入決定に間接的に影響力持つ人々であったことは、一連の政界からの来訪もさることながら MEDICA/COMPAMED が業界にとっては重用で先導的な見本市であることを証明している。「医療（病院）団体の数は減少し、この傾向はさらに続くようである。団体の数が少なくなれば医療器材の購入は中央管理的に行われるようになる。その意味でデュッセルドルフに来る決定権をもつ来場者の重要度が高まることになってくる。」とメッセ・デュッセルドルフ取締役のシェーファーは述べている。

今回の来場者の国数は 100 を超えている。出展者は 64 カ国から合計 4400 で、これまでで最高の数字になっている。(MEDICA 日本出展 7 社—現地法人出展を除く)

併催イベント：MEDICA を成功に導くもう一つのファクター

MEDICA を成功に導いたもう一つのファクターは、学際的で多様な、例えば MEDICA MEDIA や MEDICA PHYSIO などのフォーラムやテーマパークを含む併催行事や会議である。「例えば癌、リウマチ、アレルギーなどの併発症状を持った患者の取り扱いに関するセミナーには多くの参加者があった。」MEDICA 会議の主催者ドイツ学際医療技術協会の専務理事ラウテンシュトラウホが述べている。



イノベーションで効果を高揚

会場内で新しい製品に関して最も頻繁に聞かれたテーマは「工程の最大限利用」で、多数の出展者は特に手術室での効果と柔軟性の高揚に力を入れていた。例えば「ハイブリッドオペルーム」では外科医が手術を行うと同時に画像の加工も出来るという風である。これは診断過程と外科が完璧に接近した一例として挙げられる。またコンピューターを活用しての様々なシステムが手術室に採用されている。他に IT の医療への活用、移動式の手術装備などずらりと展示されていた。

COMPAMED ではハイテクソリューション

MEDICA と同時に開催され、医療機器の部品等を製造する下請け企業が出展参加する COMPAMED には 37 カ国より 575 社の出展があり、16,000 を超す来場者を記録した。出展者は最新の素材や部品、包装材料やマイクロシステム技術までを展示発表した。
(COMPAMED 日本出展 8 社－現地法人出展を除く)

日本からの直接出展企業は過去最高の 85 社

医療機器業界の世界トップの見本市である MEDICA では、業界関係者がこの時期、世界中からデュッセルドルフを訪問し、活発な商談を行う。日本からは今回、2つのメッセに 85 の出展者が参加し、ジェトロ、神戸市、大阪商工会議所、鹿沼商工会議所はそれぞれパビリオンを設けて関連メーカーの出展をサポートした。

以下は日本出展企業のコメント。

* 「前回同様人通りもよく、多くの方が立ち寄ってくれたと思います。去年よりも弊社認知度も高まり、売り込みも多かったです。JAPAN ロゴも好評でした」(日本シグマックス株式会社)

* 「全世界の多くの Potential Customer との接触ができた。出展のメリットを感じている」
(株式会社細胞科学研究所)

* 「中東、東欧のブース来場者が増えた印象があります。既存得意先エリアとバッティングせず、国際的で良いと思います」(山佐時計計器株式会社)

* 「金・土曜日は来訪者数が激減して少しがっかりしましたが、今年は質の良い引き合いが多く、成果の多い出展になりました」(株式会社テクノメディカ)

* 「3 回目の出展にて英国の販売代理店との共同出展としたため、顧客への対応、価格、コミュニケーションが改善。商談機会が多くなり、受注成果を得ている」(株式会社エクセルエンジニアリング)

メッセ・デュッセルドルフ・ジャパンも会場のホール 16 にブースを設け、出展者や来場者の様々な問い合わせに対応した。特に来年の出展を検討する日本企業



に対し、出展費用や手続き、準備法方法などの説明を行った。また昨年に引き続き 3,000 部作成した「日本出展者リスト」をブース訪問した外国人ビジターに配布し、日本企業ブースへの訪問を促した。

会期 2 日目の 11 月 18 日にメッセ・デュッセルドルフ・ジャパンは、ドイツマイクロ技術協会 IVAM 及びメッセ・デュッセルドルフ本社の協力を得て、COMPAMED 会場内にて日本人向けセミナーを開催した。リュッケル法律事務所の弁護士 Dr. V. リュッケルが「ドイツにおける医薬品の診療検査」について、ユケ・システム・テクノロジー社の代表取締役 M. ユルゲンスが「医療機器下請け企業の役割の変化」やドイツ・マイクロ技術協会) 理事 Dr. U. クラインケスが「ヨーロッパの医療機器製造時術の動向」について報告した。同時通訳付きのフォーラムが参加者に高い評価を受けた。MDJ では当日発表の日本語版レジュメを一部 5,000 円で販売している。

次回の MEDICA2011 は 2011 年 11 月 16 日から 19 日まで
COMPAMED 2011 は 2011 年 11 月 16 日から 18 日まで開催の予定。

MEDICA2011 への出展申し込み締め切りは 3 月 1 日厳守 申込に関しますご案内は[こちら](#)
COMPAMED2011 への出展申し込みは 3 月より 5 月 15 日

(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

担当：服部

〒104-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1

ニューオータニガーデンコート 7 F

Tel.03-5210-9951 Fax.03-5210-9959

mdj@messe-dus.co.jp

www.messe-dus.co.jp